

Arcserve Unified Data Protection 10.x サーバ構成とスペック見積もり方法

Rev 2.0

arcserve Japan

2025年9月

はじめに

- 本資料ではArcserve Unified Data Protection (UDP) 10.x の「Arcserve UDP コンソール」と「復旧ポイントサーバ」を導入するサーバ スペックの見積もり例を、動作要件及び「Arcserve UDP コンソール」に搭載されている[「メモリおよびストレージの要件の推定」ツール](#)の計算結果を元に掲載しています。
- 資料内見積もり例では、バックアップ対象容量を2TBで計算していますが、2TB以外の容量で見積もる場合は「[補足 1. 復旧ポイントサーバのストレージ使用量とメモリサイズの計算例](#)」(P.28~) を参考に計算します。
- さらに詳細な要件見積もりが必要な場合は、[付録1](#)に掲載されているツール説明をご確認の上、ご利用ください。
- 本資料には製品機能説明は含めていないため、Arcserve UDP の機能をご存知でない方は「[ご紹介](#)」資料を事前にお読みいただとか、無償のテクニカルトレーニングにご参加の上で読み進めることをお勧めします。
- 「Arcserve Unified Data Protection ご紹介プレゼンテーション」
<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-10/udp-10x-presentation.pdf>
- <セミナーお申し込みページ>
- 最新のハンズオンセミナーの開催状況や、また同等の内容を録画したWEBセミナーを実施しておりますので、詳しくは以下を参照ください。
◎Arcserve イベント / セミナー
<https://www.arcserve.com/jp/seminars>

サーバ スペック見積もり方法

1. バックアップ要件から「Arcserve UDP コンソール」と「復旧ポイントサーバ」の必要有無を確認 ([P.4 参照](#))
2. 「要件をカバーする構成例」 ([P.5 参照](#))で、バックアップ要件を満たす構成例を選択
3. 構成例別の詳細ページ ([P.7~P.27 参照](#)) で「Arcserve UDP コンソール」と「復旧ポイントサーバ」の配置（インストール先）を確認
4. 「Arcserve UDP コンソール」と「復旧ポイントサーバ」をインストールするサーバスペックを確認

要件別「Arcserve UDP コンソール」「復旧ポイントサーバ」要否表①

要件	Arcserve UDP コンソール	復旧ポイント サーバ
エージェントによるイメージ バックアップ*		
イメージ バックアップの統合管理	●	
共有フォルダ(CIFS/NFS)のバックアップ*	●	●
仮想マシンのエージェントレス バックアップ*	●	
バックアップ先データ量の削減（重複排除）	●	●
メモリ消費を抑えたバックアップ先データ量の削減（重複排除）	●	●
Microsoft 365のバックアップ*	●	●
バックアップ データの災害対策（遠隔転送/Cloud Hybrid）	●	●
クラウド サービスを利用した災害対策（遠隔転送）	●	●
リカバリ時間の短縮と業務継続（仮想スタンバイ）	●	※1
リカバリ時間の短縮と業務継続（インスタントVM）	●	● ※2
スケジュール連携によるD2D2T（テープ保管）	●	

*1 スタンバイ VM の手動作成（アドホック 仮想スタンバイ）または遠隔地で仮想スタンバイを行う場合に必要です。

*2 バックアップ元が Linux OS の場合は、別途「復旧サーバ」としてLinux Backup Server (LBS) が必要です。

要件別 「Arcserve UDP コンソール」 「復旧ポイントサーバ」 要否表②

要件	Arcserve UDP コンソール	復旧ポイント サーバ
クラウド サービスを利用した業務継続（仮想スタンバイ）	●	※1
クラウド サービスを利用した業務継続（インスタントVM）	●	● ※2
バックアップ データのセキュリティ スキャン（アシュアード セキュリティ スキャン）	●	
Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage データ ストア	●	●
Arcserve Cyber Resilient Storage データ ストア	●	●
Arcserve Cloud Storage データストア	●	●
AWS / Azure / Google Cloud クラウド ストレージ データストア	●	●

※1 スタンバイ VM の手動作成（アドホック 仮想スタンバイ）または遠隔地で仮想スタンバイを行う場合に必要です。

※2 バックアップ元が Linux OS の場合は、別途「復旧サーバ」としてLinux Backup Server (LBS) が必要です。

要件をカバーする構成例①

要件	構成例	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
エージェントによるイメージ バックアップ		●	●	●	●				●	●		●								●	●	●	●			
イメージ バックアップの統合管理			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
共有フォルダ(CIFS/NFS)のバックアップ								●																		
仮想マシンのエージェントレス バックアップ										●					●	●	●	●	●							
バックアップ先データ量の削減（重複排除）					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
メモリ消費を抑えたバックアップ先データ量の削減 (重複排除)						●																				
Microsoft 365のバックアップ							●	●																		
バックアップデータの災害対策 (遠隔転送/Cloud Hybrid)									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
クラウドサービスを利用した災害対策（遠隔転送）												●	●								●	●				
リカバリ時間の短縮と業務継続（仮想スタンバイ）														●	●					●	●					
リカバリ時間の短縮と業務継続（インスタントVM）																●	●		●	●			●			
スケジュール連携によるD2D2T（テープ保管）															●											

要件をカバーする構成例②

要件	構成例	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
クラウドサービスを利用した業務継続 (仮想スタンバイ)																		●							
クラウドサービスを利用した業務継続 (インスタントVM)																			●						
バックアップデータのセキュリティスキャン (アシュアード セキュリティ スキャン)		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage データストア																						●			
Arcserve Cyber Resilient Storage データストア																							●		
Arcserve Cloud Storage データストア																							●		
AWS / Azure / Google Cloud クラウドストレージ データストア																								●	

Arcserve UDP コンソールと復旧ポイントサーバを1台に導入する際の考慮点

- CPUは、最も要求の高いスペックに統一
 - 最新情報は動作要件に記載しております、必要スペックの確認の際は動作要件も併せてご確認下さい。
<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-X-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>
- メモリは、各コンポーネントの必要量を合算し、インストール先サーバOSの実行に必要なメモリ量も加え計算
 - OS推奨スペックは追加した役割に応じ異なります。必要なリソースについてはMicrosoft社のドキュメントを参照してください。
- 重複排除利用時は、バックアップ対象データ量に応じメモリ量を追加
 - メモリ/ストレージは将来的なバックアップ対象データ量の増加分も含め、余裕をもって見積もってください。

① エージェントによるイメージバックアップ

A. Agent(Windows)



B. ファイルサーバ



想定条件

全体のデータ量 : **2TB**

増分量 : 200GB (10%)

圧縮率 : 30%

- AからBの共有フォルダへバックアップ
- バックアップ設定はブラウザからAgentにアクセスしWeb GUIで設定

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

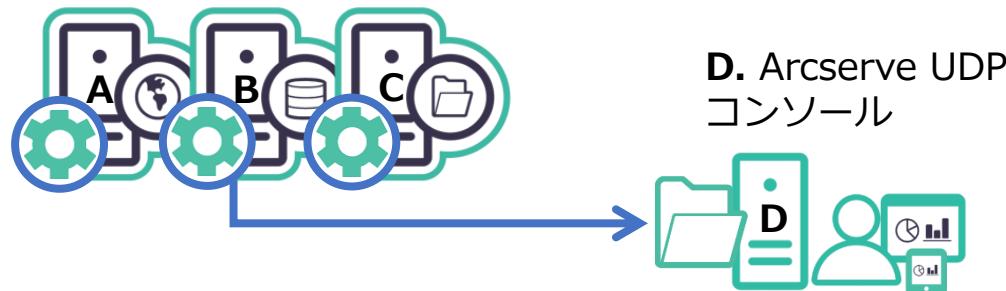
** Windows Agent利用時のストレージ計算例は [P.35](#)を参照

コンポーネント名	導入先	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Windows Agent	A	1 GHz以上	4 GB以上	-
OS最小構成による合計値	A	1.4 GHz以上	6 GB以上*	2.38 TB**

② イメージバックアップの統合管理

A～C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%

- A, B, C 各サーバのAgentから、Dの共有フォルダへバックアップ
- Dの Arcserve UDP コンソールで、A,B,C各サーバのバックアップ設定を一元管理

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

** Windows Agent利用時のストレージ計算例は [P.35](#)を参照

コンポーネント名	導入先	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
OS最小構成による合計値	D	1.4 GHz以上	10 GB以上*	2.38 TB以上**

③ イメージバックアップの統合管理と重複排除

A~C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



D. Arcserve UDP コンソール +
復旧ポイントサーバ

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**

増分量 : 200GB (10%)

圧縮率 : 30%

重複排除率 : 45%

- A, B, C 各サーバから、Dの復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ
- Dの Arcserve UDP コンソールで、A,B,C各サーバのバックアップ設定を一元管理

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	D	2論理コア/1.6 GHz以上	23 GB以上**	1309 GB ***

④ イメージバックアップの統合管理とメモリ消費を抑えた重複排除

A~C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 40%

- A, B, C 各サーバから、Dの Arcserve UDP コンソール兼復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ
- 重複排除データストアのブロックサイズを “**16”->“64” KB** に変更しメモリ消費を節約 (64KB時の推定値は [P.43](#)参照)

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.40](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D	2論理コア/1.6 GHz以上	9 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	D	2論理コア/1.6 GHz以上	19 GB以上**	1428 GB ***

⑤ Microsoft 365のバックアップ(オンプレサーバへの一次バックアップ)

A. Microsoft 365



- A (Microsoft 365) の Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive、Teamsのデータを
B の Arcserve UDP コンソール兼復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (M365 プロキシ)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	B	2論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***

⑥ Microsoft 365のバックアップ(Cloud Hybridへの一次バックアップ)

A. Microsoft 365



B. Arcserve UDP Cloud Hybrid



- A (Microsoft 365) の Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive、Teamsのデータを、B の Arcserve UDP Cloud Hybrid へ重複排除バックアップ

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

以下をご発注時に、バックアップ対象テナントに含まれる**すべての有効なMicrosoft 365ライセンス数(ユーザ数)**を オーダーシートにご記入ください。
弊社側で適切なスペックのクラウド環境を準備するために必要な情報となります。

Arcserve UDP Cloud Hybrid (Baas)	場所	数量
Storage - 1 TB	B	1
Additional Storage - 1 TB	B	1

⑦ CIFS/NFS 共有のバックアップ

A. NAS (CIFS/NFS共有をホスト)



- A の CIFS/NFS共有に保管されたファイルを
B の Arcserve UDP コンソール兼復旧ポイントサーバへ
重複排除バックアップ

B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ 兼 CIFS/NFS共有 バックアップ プロキシ



想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (CIFS/NFS共有 プロキシ)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	B	2論理コア/1.6 GHz 以上	27 GB以上**	1309 GB ***

⑧ イメージバックアップの統合管理と重複排除、テープ保管

A~C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



D. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ + Arcserve Backup

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

- A, B, C 各サーバから、Dの Arcserve UDP コンソール兼復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ
- Dに保存されたバックアップデータをテープに2次保管

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
Arcserve Backup	D	1.4 GHz以上	2 GB以上	-
OS最小構成による合計値	D	2論理コア/1.6 GHz以上	25 GB以上**	1309 GB ***

⑨ イメージバックアップの統合管理と重複排除、遠隔転送

A~C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



D. Arcserve UDP コンソール
+ 復旧ポイントサーバ



E. 復旧ポイント
サーバ

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**

増分量 : 200GB (10%)

圧縮率 : 30%

重複排除率 : 45%

- A, B, C 各サーバから、Dの Arcserve UDP コンソール兼復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ
- DからEの復旧ポイントサーバへバックアップデータを転送

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D, E	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	D	2論理コア/1.6 GHz以上	23 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	E	2論理コア/1.6 GHz以上	15 GB以上**	1309 GB ***

⑩ エージェントレス バックアップの重複排除

A. VMware vSphere
Microsoft Hyper-V
Nutanix AHV



B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ + バックアップ プロキシ



想定条件

全体のデータ量： **2TB**
増分量： 200GB (10%)
圧縮率： 30%
重複排除率： 45%

- Bの Arcserve UDP コンソールを使用し Aの仮想マシンを検出し、エージェントレス バックアップを設定
- ホストA上の仮想マシンをエージェントレスで、Bへ重複排除バックアップ

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

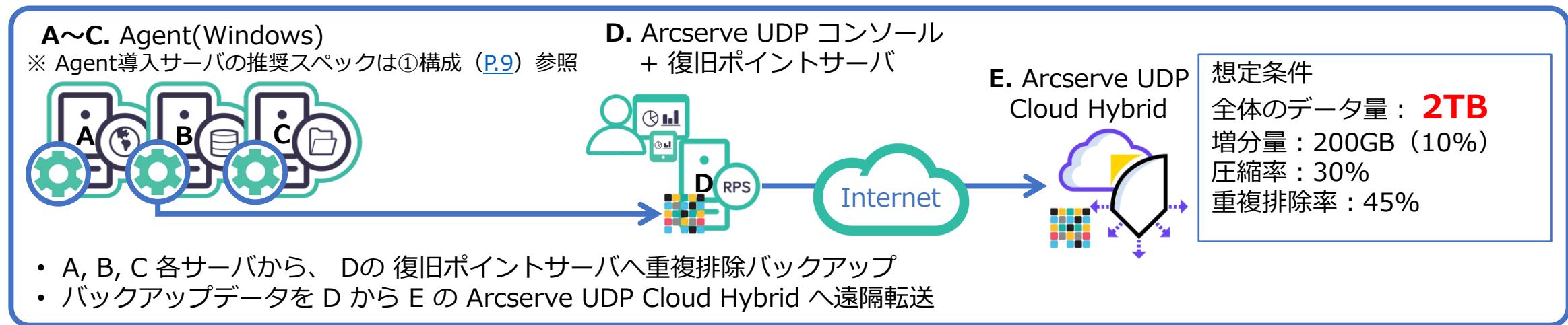
** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアップ プロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz以上	31 GB以上**	1309 GB ***

⑪ イメージバックアップの統合管理と重複排除、遠隔転送 (Cloud Hybrid)



* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

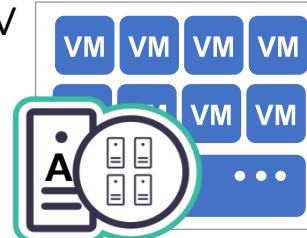
<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	D	2論理コア/1.6 GHz以上	23 GB以上**	1309 GB ***

Arcserve UDP Cloud Hybrid (BaaS)	場所	数量
Storage - 1 TB	E	1
Additional Storage - 1 TB	E	1

⑫ エージェントレス バックアップの重複排除と遠隔転送 (Cloud Hybrid)

A. VMware vSphere
Microsoft Hyper-V
Nutanix AHV



B. Arcserve UDP コンソール
+ 復旧ポイントサーバ
+ バックアップ プロキシ



C. Arcserve UDP Cloud Hybrid



想定条件
全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

- Bの Arcserve UDP コンソールを使用しAの仮想マシンを検出し、エージェントレス バックアップを設定
- ホストA上の仮想マシンをエージェントレスで、Bへ重複排除バックアップ後、Arcserve UDP Cloud Hybrid へ遠隔転送

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* **

重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#) を参照

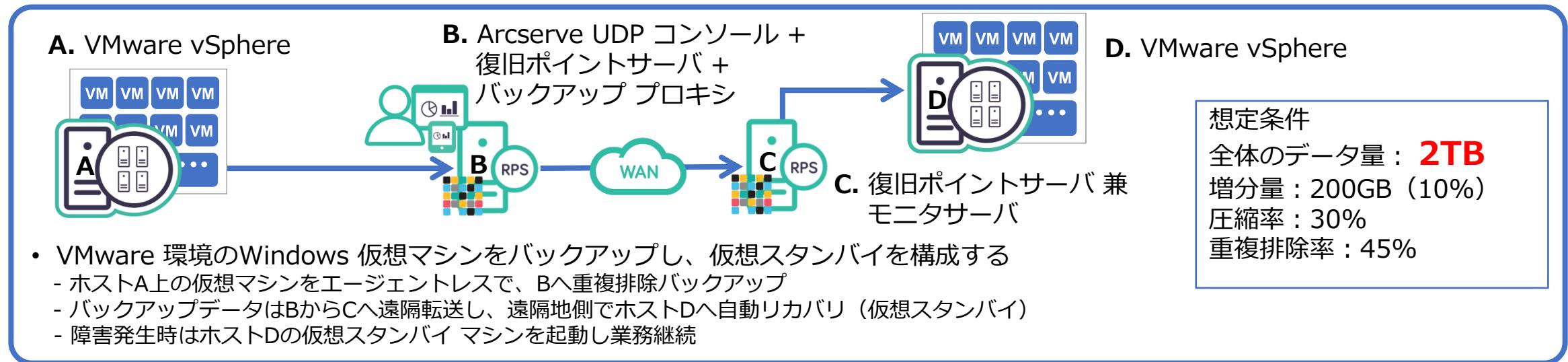
Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアップ プロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	31 GB以上**	1309 GB ***

Arcserve UDP Cloud Hybrid (BaaS)	場所	数量
Storage - 1 TB	C	1
Additional Storage - 1 TB	C	1

⑬ エージェントレス、重複排除、遠隔仮想スタンバイ(VMware)

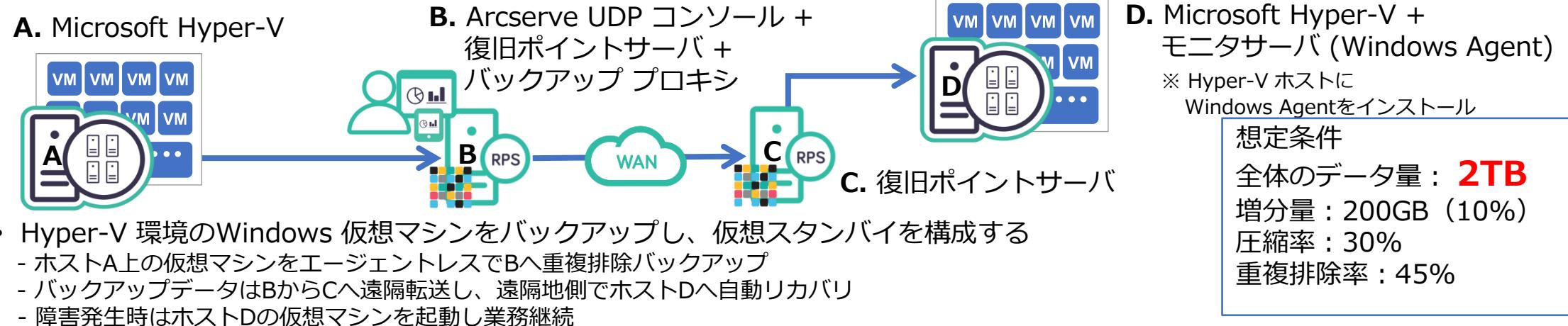


* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#) を参照
<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例> ** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアッププロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	31 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	4論理コア/1.6 GHz 以上	15 GB以上**	1309 GB ***

⑯ エージェントレス、重複排除、遠隔仮想スタンバイ(Hyper-V)



<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

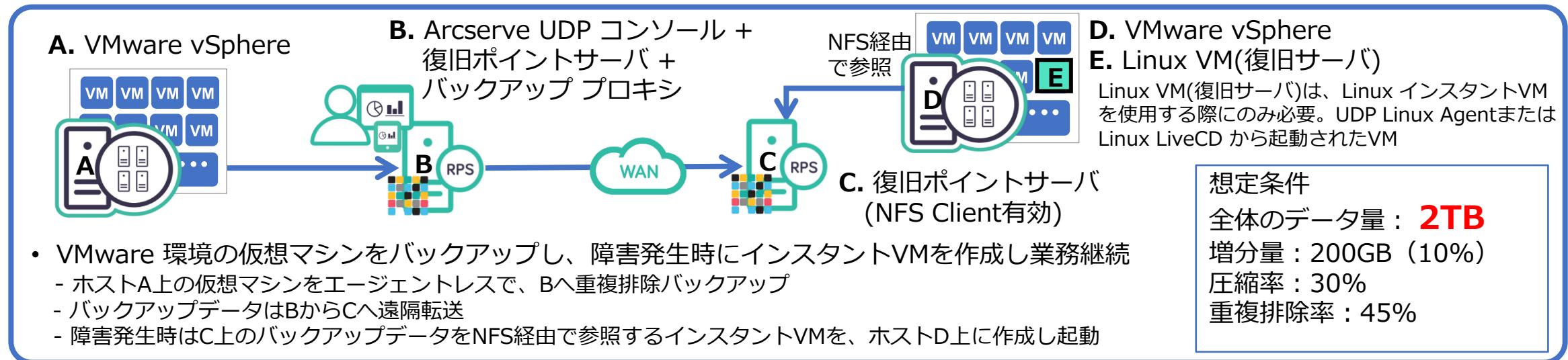
* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアッププロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
モニタサーバ (Win Agent)	D	1 GHz以上	4 GB以上	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	31 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	2論理コア/1.6 GHz 以上	15 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	D	1 GHz以上	6 GB以上**	-

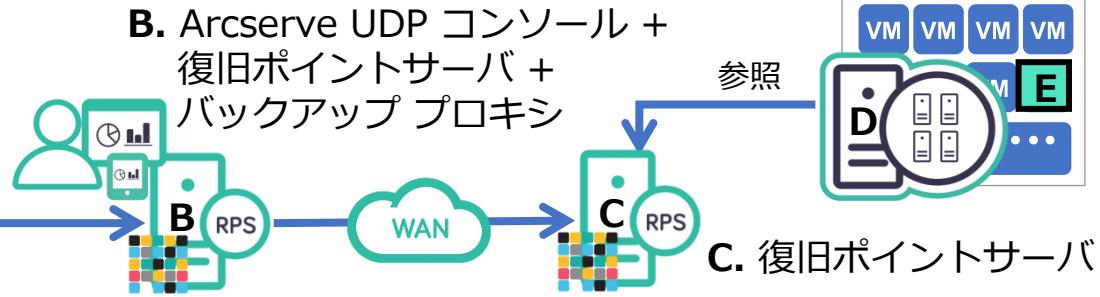
⑯ エージェントレス、重複排除、遠隔インストントVM (VMware)



コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアッププロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
Linux VM(復旧サーバ)	E	1 GHz以上	2 GB以上****	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	31 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	4論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***

⑯ エージェントレス、重複排除、遠隔インストントVM (Hyper-V)

A. Microsoft Hyper-V



- Hyper-V 環境の仮想マシンをバックアップし、障害発生時にインストントVMを作成
 - ホストA上の仮想マシンをエージェントレスでBへ重複排除バックアップ
 - バックアップデータはBからCへ遠隔転送
 - 障害発生時はC上のバックアップデータをネットワーク経由で参照するVMをホストD上に作成し起動

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#) を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#) を参照

D. Microsoft Hyper-V + モニタサーバ

E. Linux VM(復旧サーバ)

Linux VM(復旧サーバ)は、Linux インストントVMを使用する際にのみ必要。UDP Linux Agentまたは UDP Linux LiveCD から起動されたVM

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**

増分量 : 200GB (10%)

圧縮率 : 30%

重複排除率 : 45%

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
バックアップ プロキシ	B	4論理コア 以上	8 GB以上	-
モニタサーバ (Win Agent)	D	1 GHz以上	4 GB以上	-
Linux VM (復旧サーバ)	E	1 GHz以上	2 GB以上****	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	31 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	2論理コア/1.6 GHz 以上	15 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	D	1 GHz以上	6 GB以上**	-

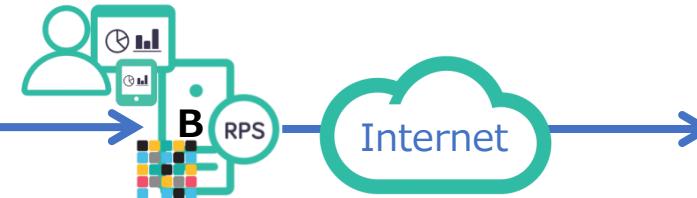
⑯ イメージバックアップ、重複排除、遠隔仮想スタンバイ (Cloud Hybrid)

A. Agent (Windows)

※ 推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ



C. Arcserve UDP Cloud Hybrid



- Windows サーバ A から Bへ重複排除バックアップ
- バックアップデータを B から C の Arcserve UDP Cloud Hybrid へ遠隔転送し、スタンバイVMを自動生成
- 障害発生時は C 上のスタンバイ VMを起動

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

**** 仮想スタンバイの仮想ディスク用のストレージが必要です

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	B	2論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***

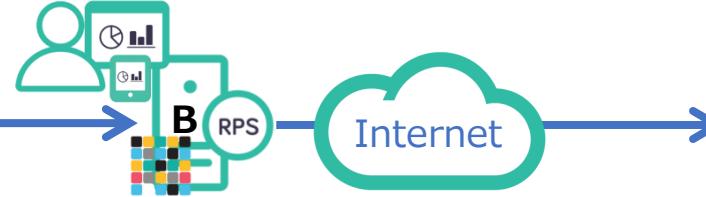
Arcserve UDP Cloud Hybrid 東日本リージョン (DRaaS)	場所	数量
Storage - 1 TB	C	1****
Additional Storage - 1 TB	C	3****
Compute - 1 vCPU & 4 GB RAM	C	バックアップ対象サーバのスペックに応じます

⑯ イメージバックアップ、重複排除、遠隔インスタンスVM (Cloud Hybrid)

A. Agent (Windows/Linux)
※ 推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



B. Arcserve UDP コンソール +
復旧ポイントサーバ



C. Arcserve UDP
Cloud Hybrid



- ・サーバ A から B へ重複排除バックアップ
- ・バックアップデータを B から C の Arcserve UDP Cloud Hybrid へ遠隔転送
- ・障害発生時は C 上にインスタンスVM を作成し起動

想定条件
全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) との合算

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

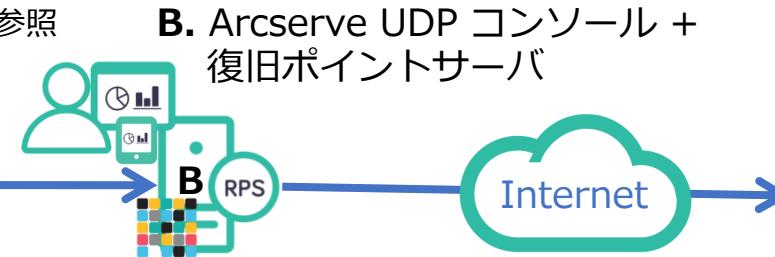
コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	B	2論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***

Arcserve UDP Cloud Hybrid 東日本リージョン (DRaaS)	場所	数量
Storage - 1 TB	C	1
Additional Storage - 1 TB	C	1
Compute - 1 vCPU & 4 GB RAM	C	バックアップ対象サーバのスペックに応じます

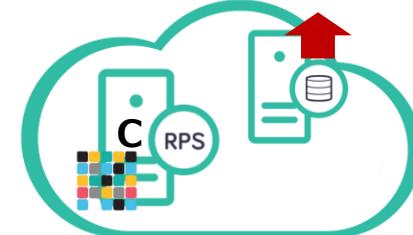
⑯ イメージバックアップ、重複排除、遠隔仮想スタンバイ (AWS/Azure/Google Cloud)

A. Agent (Windows)

※ 推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



C. 復旧ポイントサーバ



想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

- ・ サーバ A を B へ重複排除バックアップ
- ・ バックアップデータを B から AWS/Azure/Google Cloud 上の Cへ遠隔転送し、仮想スタンバイ VMを自動生成
- ・ 障害発生時は AWS/Azure/Google Cloud 上の スタンバイ VMを起動

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

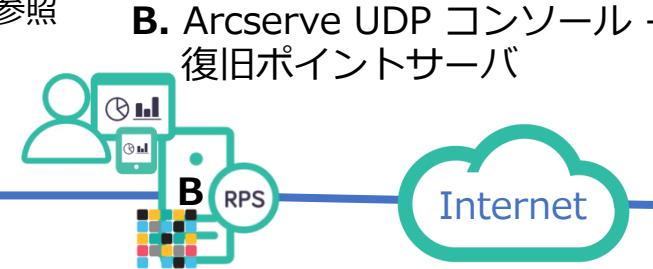
** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	4論理コア/1.6 GHz 以上	15 GB以上**	1309 GB ***

② イメージバックアップ、重複排除、遠隔インストントVM (AWS/Azure/Google Cloud)

A. Agent (Windows/Linux)

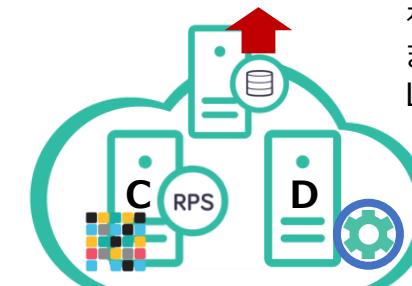
※ 推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



- ・サーバ A を B へ重複排除バックアップ
- ・バックアップデータを B から AWS/Azure/Google Cloud 上の C へ遠隔転送
- ・障害発生時は AWS/Azure/Google Cloud 上にインストントVM を作成し起動

D. Linux VM(復旧サーバ)

AサーバがLinuxで、Linux インストントVMを作成する際に必要。 UDP Linux Agent または Linux LiveCD AMIから起動された Linux インスタンス



C. 復旧ポイントサーバ

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

**** Linux LiveCDから起動時は4GB以上必要です

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	B, C	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
Linux VM(復旧サーバ)	D	1 GHz以上	2 GB以上****	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上**	1309 GB ***
OS最小構成による合計値	C	4論理コア/1.6 GHz 以上	15 GB以上**	1309 GB ***
CentOS構成例による最小値	D	1 GHz以上	4 GB以上****	-

㉑ イメージバックアップの統合管理、重複排除、アシュアードセキュリティ スキャン

A~C. Agent(Windows)

※ Agent導入サーバの推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照



D. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ + Agent(プロキシサーバ)

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**

増分量 : 200GB (10%)

圧縮率 : 30%

重複排除率 : 45%

- A, B, C 各サーバから、Dの復旧ポイントサーバへ重複排除バックアップ
- DのArcserve UDP コンソールで、A,B,C各サーバのバックアップ設定を一元管理
- DのArcserve UDP Agent (プロキシサーバ※) でバックアップデータをスキャン

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

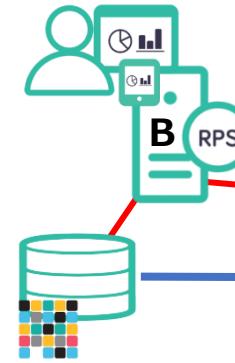
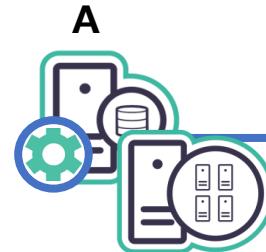
*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	D	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ	D	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上*	-
Windows プロキシサーバ	D	4論理コア/2.2 GHz以上	8 GB以上	-
OS最小構成による合計値	D	4論理コア/2.2 GHz以上	31 GB以上**	1309 GB ***

㉚ Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage データストア

A. バックアップ対象

※ Agent の推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照
Agentless の推奨スペックは⑩構成 ([P.18](#)) 参照



B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ

- ・バックアップ対象 A を B のローカルディスクにあるデータストアへ重複排除バックアップ
- ・B のローカルディスクのデータストアから Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage へ転送
- ・ランサムウェア被害後は、Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage から復旧

C. Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

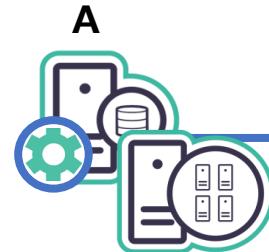
**** RPSに必要な追加リソースについては [補足2\(P.45\)](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (RPS)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	14 GB以上 *	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	24 GB以上 **	1309 GB ***

㉓ Arcserve Cyber Resilient Storage データストア

A. バックアップ対象

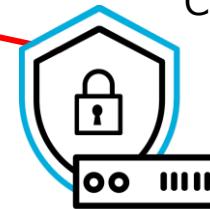
※ Agent の推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照
Agentless の推奨スペックは⑩構成 ([P.18](#)) 参照



- ・バックアップ対象 A を B を経由してArcserve Cyber Resilient Storageへ重複排除バックアップ
- ・ランサムウェア被害後は、Arcserve Cyber Resilient Storage から復旧



B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ



C. Arcserve Cyber Resilient Storage

想定条件
全体のデータ量： **2TB**
増分量： 200GB (10%)
圧縮率： 30%
重複排除率： 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

**** RPSに必要な追加リソースについては [補足2\(P.45\)](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (RPS)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	13 GB以上 *	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	23 GB以上 **	1309 GB ***

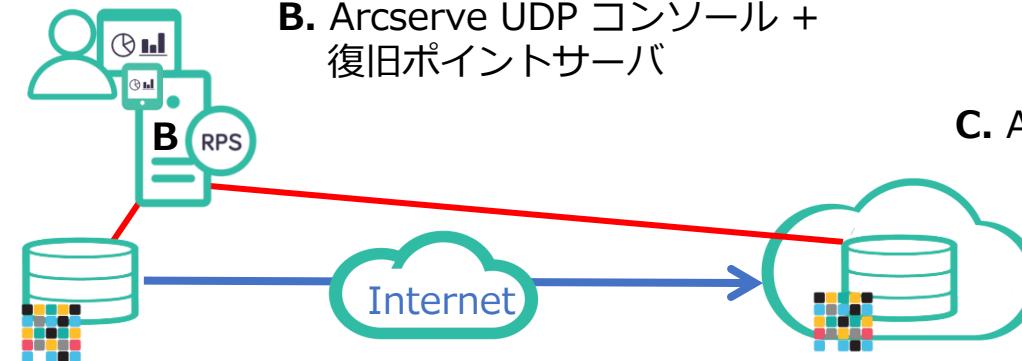
24 Arcserve Cloud Storage データストア

A. バックアップ対象

※ Agent の推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照
Agentless の推奨スペックは⑩構成 ([P.18](#)) 参照



B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ



C. Arcserve Cloud Storage

想定条件
全体のデータ量： **2TB**
増分量： 200GB (10%)
圧縮率： 30%
重複排除率： 45%

- ・ バックアップ対象 A を B のローカルディスクにあるデータストアへ重複排除バックアップ
- ・ B のローカルディスクのデータストアから Arcserve Cloud Storage へ転送

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

**** RPSに必要な追加リソースについては [補足2\(P.45\)](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (RPS)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	14 GB以上 *	-
OS最小構成による合計値	B	4論理コア/1.6 GHz 以上	24 GB以上 **	1309 GB ***

㉕ AWS / Azure / Google Cloud クラウドストレージデータストア

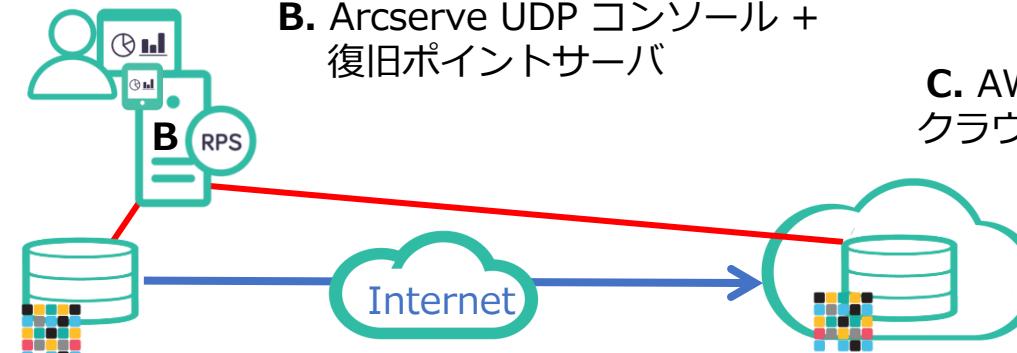
A. バックアップ対象

※ Agent の推奨スペックは①構成 ([P.9](#)) 参照
Agentless の推奨スペックは⑩構成 ([P.18](#)) 参照



- ・バックアップ対象 A を B のローカルディスクにあるデータストアへ重複排除バックアップ
- ・B のローカルディスクのデータストアから AWS/Azure/Google Cloud のクラウドストレージデータストアへ転送

B. Arcserve UDP コンソール + 復旧ポイントサーバ



C. AWS / Azure / Google Cloud クラウドストレージデータストア

想定条件

全体のデータ量 : **2TB**
増分量 : 200GB (10%)
圧縮率 : 30%
重複排除率 : 45%

<Windows Server 2022へ導入する際のスペック例>

* 重複排除有効時のメモリ計算は [P.38](#)を参照

*** 重複排除有効時のストレージ計算は [P.36](#)を参照

** Windows Server 2022 最小要件 (2GB) と合算

**** RPSに必要な追加リソースについては [補足2\(P.45\)](#) を参照

コンポーネント名	場所	CPUコア/クロック	メモリ サイズ	増分で1週間保持する際の 推定ストレージ使用量
Arcserve UDP コンソール	B	1 GHz以上	8 GB以上	-
復旧ポイントサーバ (RPS)	B	2論理コア/1.6 GHz以上	14 GB以上 *	-
OS最小構成による合計値	D	4論理コア/2.2 GHz以上	24 GB以上 **	1309 GB ***
クラウドストレージデータストア	C			1428 GB ****

補足 1 :

復旧ポイントサーバの ストレージ使用量と メモリサイズの計算例

ストレージ使用量の見積もり例(重複排除を利用しない)

- 初回のみフルを取得、以降は増分のみでバックアップする

(フルバックアップ + (増分 × 保存世代数)) × 圧縮率

計算例)

フルバックアップ

: 2000GB(2TB)

増分

: フルバックアップの10%

保存世代数

: 7日 (増分による一時領域も含む)

圧縮削減率

: 30 %

$$((2000\text{GB}) + (200\text{GB} \times 7)) \times (1 - 0.3) = 3400 \times 0.7 = \mathbf{2380\text{GB}}$$

ストレージ使用量の見積もり例(重複排除を利用する)

- 初回のみフルを取得、以降は増分のみでバックアップする

フルバックアップ + (増分 × 保存世代数)

計算例) ※[P.41](#)の推定サイズ表から値を代入

全体容量

: 2000GB(2TB)

増分

: フルバックアップの10%

保存世代数

: 7日 (増分による一時領域も含む)

$$(770\text{GB}) + (77\text{GB} \times 7) = 1309 \text{ GB}$$

※この計算例では「デデュプリケート可能なデータの推定割合 = 45 %」の値を各項目に代入
重複排除ブロックサイズは16KB、圧縮削減率は30%の計算例

※「デデュプリケート可能なデータの推定割合 = 40 %」の場合のストレージ計算結果は以下

$$840\text{GB} + (84\text{GB} \times 7) = 1428\text{GB}$$

参考資料：ファイルサーバ 重複排除率の実測値

(参考: 計算ツール利用)

ブロックサイズ	4KB	8KB	16KB	32KB	64KB
重複排除率	64.76 %	54.36 %	46.54 %	40.71 %	35 %
圧縮率	23.65 %	24.63 %	25.15%	25.17 %	25 %
データ縮減率	73.10 %	65.60 %	59.98 %	55.64 %	49 %
メモリ使用量 (ハッシュサイズ)	1660 MB	917 MB	571 MB	308 MB	208 MB

※ バックアップ対象データ量は500GB

Arcserve UDP 10 のデフォルトブロックサイズは 16KB なので、Office系ファイルを多く含むファイルサーバの重複排除率は **45%**、トータルの縮減率は **60%** 程度であることが解ります。
(Arcserve Japan のファイルサーバ上のデータで検証)

メモリ使用量見積もり例 ブロックサイズ 16KB (デフォルト) で重複排除を利用する

- 初回のみフルを取得、以降は増分のみでバックアップする

※この計算例では「デデュプリケート可能なデータの推定割合 = 45 %」の値を各項目に代入

重複排除ブロックサイズは16KB、圧縮削減率は30%の計算例

フルバックアップ時のメモリ使用量 + (増分時のメモリ使用量 × 保存世代数)

計算例) ※[P.41](#)の推定サイズ表からメモリ割り当て最少量を代入

全体容量

: 2000GB(2TB)

増分

: フルバックアップの10%

保存世代数

: 7日 (増分による一時領域も含む)

$$2816\text{MB} + (281.6\text{MB} \times 7) = 4787.2 \text{ MB}$$

$$(4787.2\text{MB} + 8192\text{MB}) \div 1024 = \text{約12.7GB (推定メモリ使用量)}$$

[重複排除分]

[RPSベース分]

メモリ使用量見積もり例

ブロックサイズ 32KB で重複排除を利用する

- 初回のみフルを取得、以降は増分のみでバックアップする

※この計算例では「デデュプリケート可能なデータの推定割合 = 40 %」の値を各項目に代入

重複排除ブロックサイズは32KB、圧縮削減率は30%の計算例

フルバックアップ時のメモリ使用量 + (増分時のメモリ使用量 × 保存世代数)

計算例) ※[P.42](#)の推定サイズ表からメモリ割り当て最少量を代入

全体容量

: 2000GB(2TB)

増分

: フルバックアップの10%

保存世代数

: 7日 (増分による一時領域も含む)

$$1536\text{MB} + (153.6\text{MB} \times 7) = 2611.2 \text{ MB}$$

$$(2611.2\text{MB} + 8192\text{MB}) \div 1024 = \text{約10.6GB (推定メモリ使用量)}$$

[重複排除分]

[RPSベース分]

メモリ使用量見積もり例

ブロックサイズ 64KB で重複排除を利用する

- 初回のみフルを取得、以降は増分のみでバックアップする

※この計算例では「デデュプリケート可能なデータの推定割合 = 35 %」の値を各項目に代入

重複排除ブロックサイズは64KB、圧縮削減率は35%の計算例

フルバックアップ時のメモリ使用量 + (増分時のメモリ使用量 × 保存世代数)

計算例) ※[P.43](#)の推定サイズ表からメモリ割り当て最少量を代入

全体容量

: 2000GB(2TB)

増分

: フルバックアップの10%

保存世代数

: 7日 (増分による一時領域も含む)

$$832\text{MB} + (83.2\text{MB} \times 7) = 1414.4 \text{ MB}$$

$$(1414.4 + 8192) \div 1024 = \text{約9.4GB (推定メモリ使用量)}$$

[重複排除分] [RPSベース分]

重複排除時(ブロックサイズ16KB)のストレージ・メモリの推定値

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **45 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	7.7	38.5	77	192.5	308	385	770	1925	3850
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	30	100	300	700	1100	1400	2800	6900	13800
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	28.2	140.8	281.6	704	1126.4	1408	2816	7040	14080

P.36の増分 (フルバックアップ
の10%) に代入

P.36の全体容量に代入

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **30 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	9.8	49	98	245	392	490	980	2450	4900
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	40	200	400	900	1400	1800	3500	8800	17500
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	35.8	179.2	358.4	896	1433.6	1792	3584	8960	17920

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **90 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	1.4	7	14	35	56	70	140	350	700
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	5	30	50	100	200	300	500	1300	2500
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	5.1	25.6	51.2	128	204.8	256	512	1280	2560

※ 共通の値 (デフォルト)

圧縮するデータの推定割合 (%)	30
デュプリケーション ブロックサイズ (KB)	16 (デフォルト)

※ 本ページの推定サイズは、Arcserve UDP コンソールの
データストア設定画面内の**推定ツール**で確認した値です

重複排除時(ブロックサイズ32KB)のストレージ・メモリの推定値

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **40 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	8.4	42	84	210	336	420	840	2100	4200
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	20	100	200	400	600	800	1500	3800	7500
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	15.4	76.8	153.6	384	614.4	768	1536	3840	7680

P.36の増分 (フルバックアップ
の10%) に代入

P.36の全体容量に代入

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **30 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	9.8	49	98	245	392	490	980	2450	4900
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	40	100	200	400	700	900	1800	4400	8800
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	17.9	89.6	179.2	448	716.8	896	1792	4480	8960

P.39の増分 (フルバックアップ
の10%) に代入

P.39の全体容量に代入

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = **90 %**

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	1.4	7	14	35	56	70	140	350	700
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	3	10	30	60	100	100	300	600	1300
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	2.6	12.8	25.6	64	202.4	128	256	640	1280

※ 共通の値 (デフォルト)

圧縮するデータの推定割合 (%)	30
デュプリケーション ブロックサイズ (KB)	32

※ 本ページの推定サイズは、Arcserve UDP コンソールの
データストア設定画面内の**推定ツール**で確認した値です

重複排除時(ブロックサイズ64KB)のストレージ・メモリの推定値

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = 35 %

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	9.1	45.5	91	227.5	364	455	910	2275	4550
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	10	40	100	200	300	400	800	2000	4100
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	8.3	41.6	83.2	208	332.8	416	832	2080	4160

P.36の増分 (フルバックアップ
の10%) に代入

P.36の全体容量に代入

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = 30 %

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	9.8	49	98	245	392	490	980	2450	4900
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	10	40	100	200	400	400	900	2200	4400
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	9.0	44.8	89.6	224	358.4	448	896	2240	4480

P.40の増分 (フルバックアップ
の10%) に代入

P.40の全体容量に代入

◎デュプリケート可能なデータの推定割合 = 90 %

保存されるデータの推定サイズ (GB)	20	100	200	500	800	1000	2000	5000	10000
推定データ ディスティネーション容量 (GB)	1.4	7	14	35	56	70	140	350	700
推定ハッシュ ディスティネーション容量 (MB)	1	10	10	30	50	60	130	300	600
推定ハッシュ メモリ割り当て最少量 (MB)	1.3	6.4	12.8	32	51.2	64	128	320	640

※ 共通の値 (デフォルト)

圧縮するデータの推定割合 (%)	30
デュプリケーション ブロックサイズ (KB)	64

※ 本ページの推定サイズは、Arcserve UDP コンソールの
データストア設定画面内の**推定ツール**で確認した値です

「メモリおよびストレージの要件の推定」ツールの起動方法

- ① Arcserve UDP コンソール画面で復旧ポイントサーバ登録後、[データストアの追加] を選択

The screenshot shows the Arcserve UDP Unified Data Protection console interface. On the left, there's a navigation sidebar with 'ダッシュボード', 'リソース' (selected), 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. Under 'リソース', 'デスティネーション: 復旧ポイントサーバ' is selected. In the main area, there's a table with columns '名前', 'ステータス', and 'プラン数'. Two entries are visible: 'udp7sry' and 'DS1'. A context menu is open over 'DS1', with the 'データストアの追加' option highlighted by a red box.

This screenshot shows the 'メモリおよびストレージの要件の推定' (Memory and Storage Requirement Estimation) dialog box. It contains several input fields and sliders:

- 保存されるデータの推定サイズ: 20GB (スライダー: 10000GB, ボックス: 10000)
- デュプリケート可能なデータの推定割合 (%): 0% (スライダー: 100%, ボックス: 60)
- 圧縮するデータの推定割合 (%): 0% (スライダー: 100%, ボックス: 30)
- ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある:
- デュプリケーション ブロック サイズ: 16KB (ドロップダウンリスト)
- 推定データ デスティネーション容量: 2800.0 GB
- 推定ハッシュ デスティネーション容量: 10.0 GB
- 推定ハッシュ メモリ割り当て最小値: 10240.0 MB

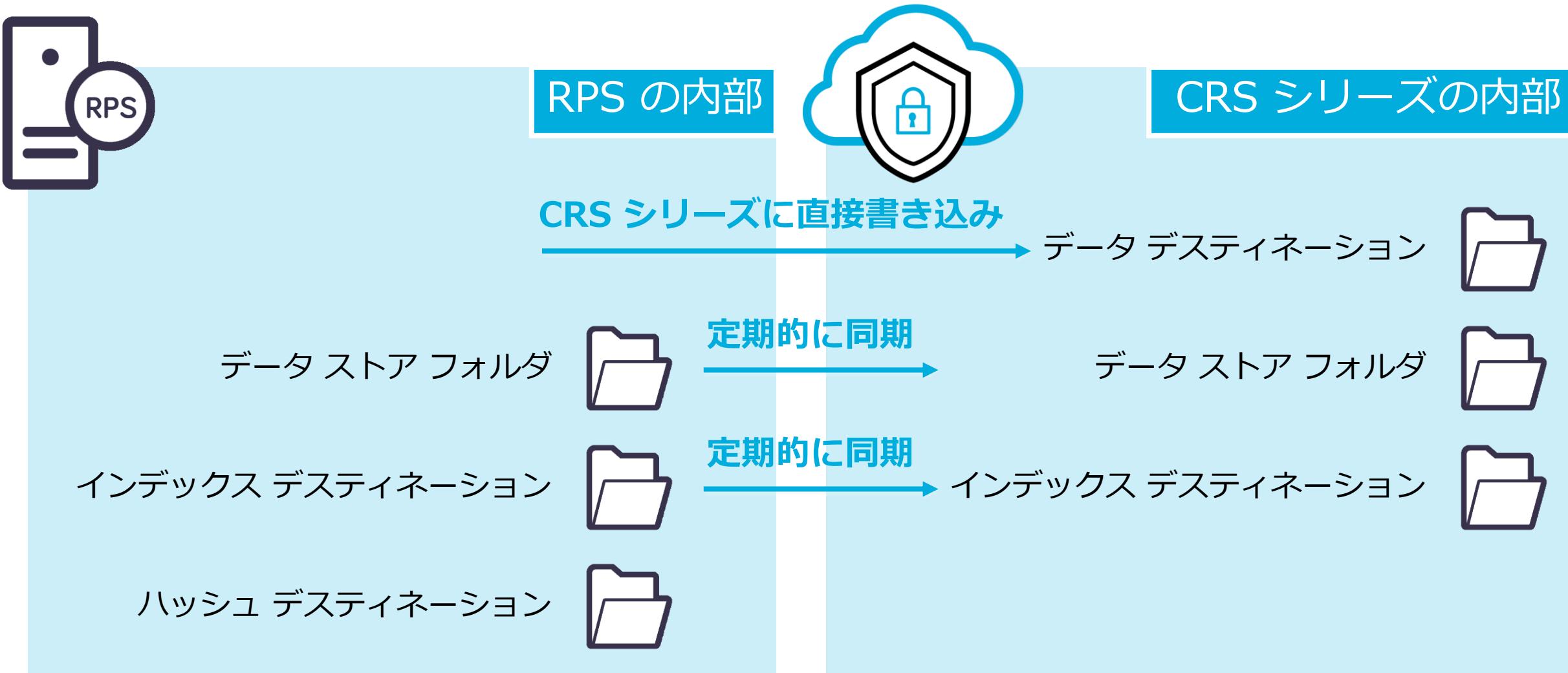
At the bottom right is a blue 'OK' button.

- ② 「要件プランニングのクイックリファレンス」をクリック

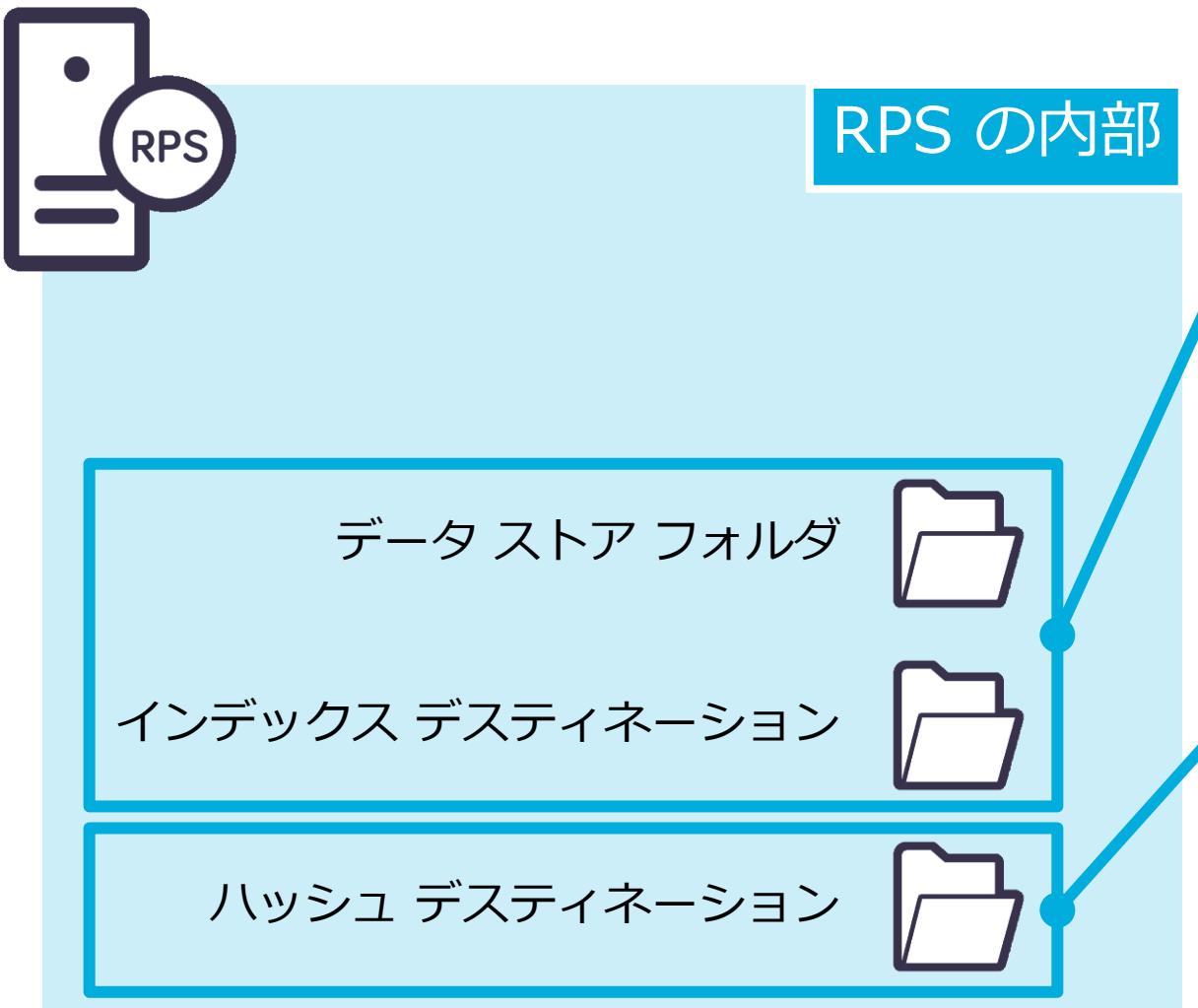
This screenshot shows the 'データストアの作成' (Datastore Creation) dialog box. It has fields for '復旧ポイントサーバ' (udp90rtm), 'データストア名' (未入力), 'データストア フォルダ' (未入力), and '同時アクティブ ノードの制限' (4). A red arrow points from the '要件プランニングのクイックリファレンス' link in the 'General Rule' section to the 'Memory and Storage Requirement Estimation' dialog box shown above.

補足 2 : クラウド ストレージ データストア および Arcserve CRS シリーズ の構成に必要な追加リソースについて

クラウドストレージデータストア および CRS シリーズ データストアのフォルダ構成



クラウドストレージデータストア および CRS シリーズ利用時のRPS に必要な追加リソース



これらの合計で、バックアップデータ量全体の1割のディスク容量が必要。

RAM モードの場合 : ハッシュ容量に応じた物理メモリとディスクが必要。容量の計算方法は以下補足を参照。ブロック サイズは 64 KB。
(補足 1 : [復旧ポイントサーバのストレージ使用量とメモリサイズの計算例](#))

SSD モードの場合 : ハッシュ容量に応じた SSD が必要。ブロック サイズは 64 KB。ハッシュ メモリの調整方法は以下記事参照。
(参考記事 : [Arcserve UDP Appliance にデータストアを追加するときの注意点](#))

付録 1： Arcserve UDP の構成支援ツール

ハードウェアスペックの算出に便利なツール その1 ～Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) サイジング ツール

重複排除が有効な RPS のスペック計算にご利用ください。

必要事項を入力するだけで、メモリとストレージ容量の推定必要量が表示されます。

詳しい使い方はブログ「[Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ \(RPS\) の容量計算が簡単になります！](#)」をご覧ください。

The screenshot shows a Microsoft Excel spreadsheet titled "Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) サイジング ツール". The spreadsheet is divided into several sections:

- Input Required Items (Red Box):** This section contains input parameters:
 - 年間データ増加率(%): 15%
 - 日々のデータ変更率(%): 2%
 - 重複排除ブロックサイズ(KB): 16 KB
 - 重複排除によるストレージ容量の削減率(%): 45%
 - 圧縮によるストレージ容量の削減率(%): 30%
 - 重複排除 + 圧縮によるストレージ容量の削減率(%): 61.5%
 - 日次バックアップの復旧ポイントの保存数: 5
 - 週次バックアップの復旧ポイントの保存数: 4
 - 月次バックアップの復旧ポイントの保存数: 3
 - 保護されるシステム(物理/仮想)の合計台数: 10
 - 圧縮/重複排除前の保護システムの合計データ量(TB): 10 TB
- Calculation Results (Red Box):** This section displays the calculated results for the next 5 years:

	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後
保護対象データ量 (TB)	10 TB	12 TB	13 TB	15 TB	17 TB	20 TB
保護ポリシーを考慮したデータ量 (TB)	18 TB	21 TB	24 TB	28 TB	32 TB	37 TB
実効容量: バックアップデータ + インデックス (TB)	9 TB	10 TB	12 TB	14 TB	16 TB	18 TB
追加容量: RPS上の仮想スタンバイ (TB)		0 TB				
追加容量: RPS間/バックアップレプリケート (TB)		0 TB				
- RPS Operation Requirements (Red Box):** This section displays the required resources for the RPS:

	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後
重複排除用 RAM / SSD 容量	26 GB	30 GB	34 GB	40 GB	46 GB	53 GB
必要なメモリ容量 (SSDモード)	18 GB	19 GB	19 GB	19 GB	20 GB	20 GB
必要なメモリ容量 (RAMモード)	44 GB	48 GB	53 GB	59 GB	65 GB	73 GB
必要な HDD 容量 (*1)	9 TB	10 TB	12 TB	14 TB	16 TB	18 TB
重複排除と圧縮で節約される HDD 容量	9 TB	11 TB	13 TB	14 TB	17 TB	19 TB
初期フルバックアップの推定所要時間(*2)	18 時間	20 時間	23 時間	26 時間	30 時間	35 時間
- Notes:**
 - (*1)運用上フルバックアップの取直しを想定し、余裕あるディスクサイズの確保を推奨します。
 - (*2)実際のバックアップにかかる時間は環境に依存するため、推定所要時間は参考としてご利用ください。
- Bottom Notes:**

Copyright © 2025, Arcserve. All rights reserved. Arcserveは登録商標または商標登録出願中の会社または個人の商標または登録商標です。Arcserveは複数の会社が所有する、および他の会社が使用する場合について、一切責任を負いません。当該製品は複数の会社が開発・販売しているため、Arcserveは該製品の販売者ではありません。また、本製品を他の会社が販売する場合がありますが、これらに付随する責任は譲り受けません。このツールは目的のためのみ使用して下さい。いかなる場合においても、いかなる状況下で本ツールを使用して構成されたドライブに記録されたデータを改ざん、このドキュメントの内容によると判断される場合は、本ツールの構成について責任を負うものではありません。
- Buttons:**
 - RPSスペック計算シート
 - 変数値一覧
 - +

ハードウェアスペックの算出に便利なツール その1 ～ Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) サイジング ツール

このツールは、お客様自身のサーバからバックアップ対象量を実測し、その値を使用し高い精度で重複排除率を推定します。

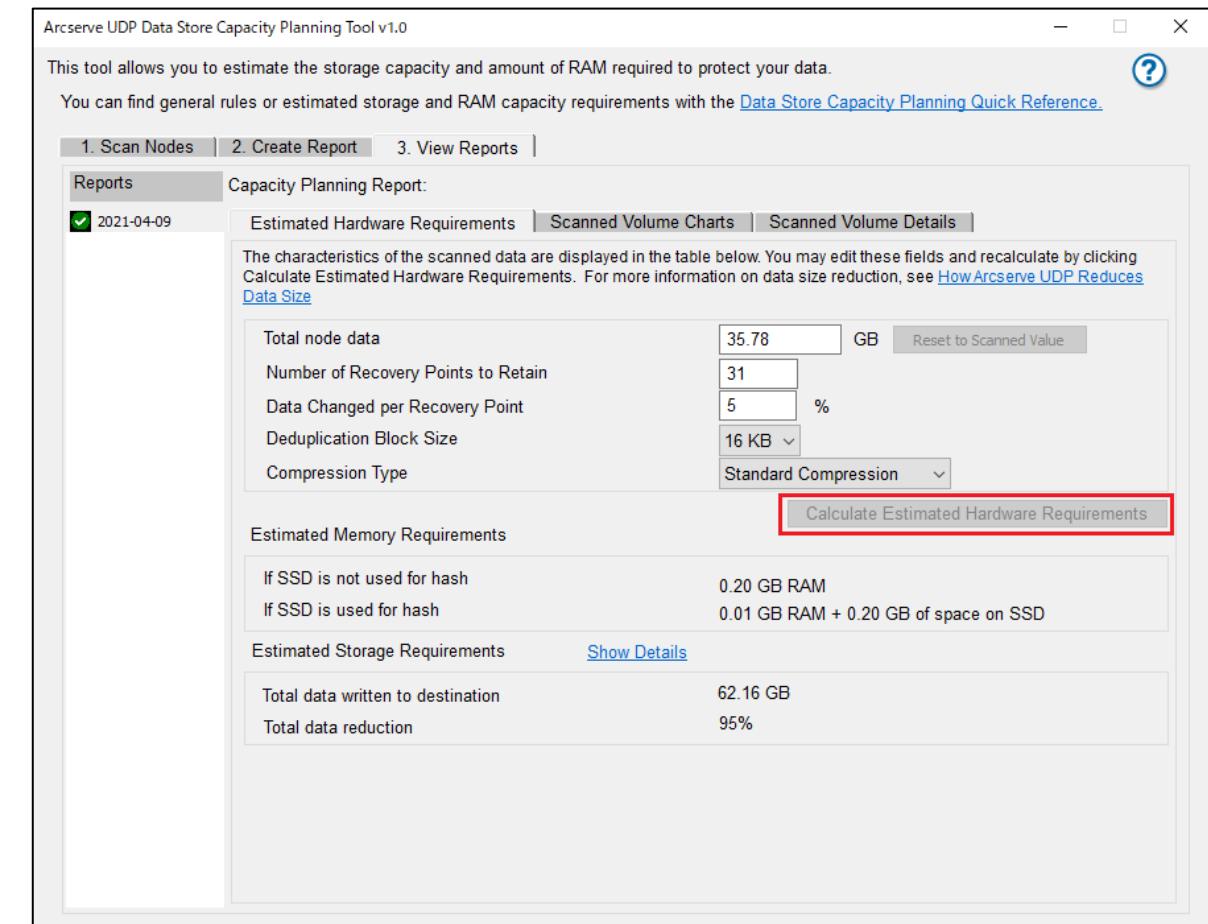
計測にはインストールもバックアップも不要なため、バックアップ先を準備することなく、手軽にお使いいただける点がメリットです。

この計測値を前ページのサイジング ツールに入力すれば、実データに基づくより正確なサイジングが行えます。

詳しい使い方はブログ「[Arcserve UDP v6 新機能紹介～\(5\) キャパシティ プラニング ツールでバックアップ サーバのサイジングをより正確に～](#)」をご覧ください。

上記ブログではダウンロード先を案内していますがトライアル環境などArcserve UDP (Agent for Linuxを除く) がインストールされている環境がある場合は、以下のインストールパスから実行することができます。

C:\¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine
¥BIN¥Tools¥RPS Planning¥ArcserveDeduplicationAssessment.exe
※ デフォルトインストールパスにインストールされている場合



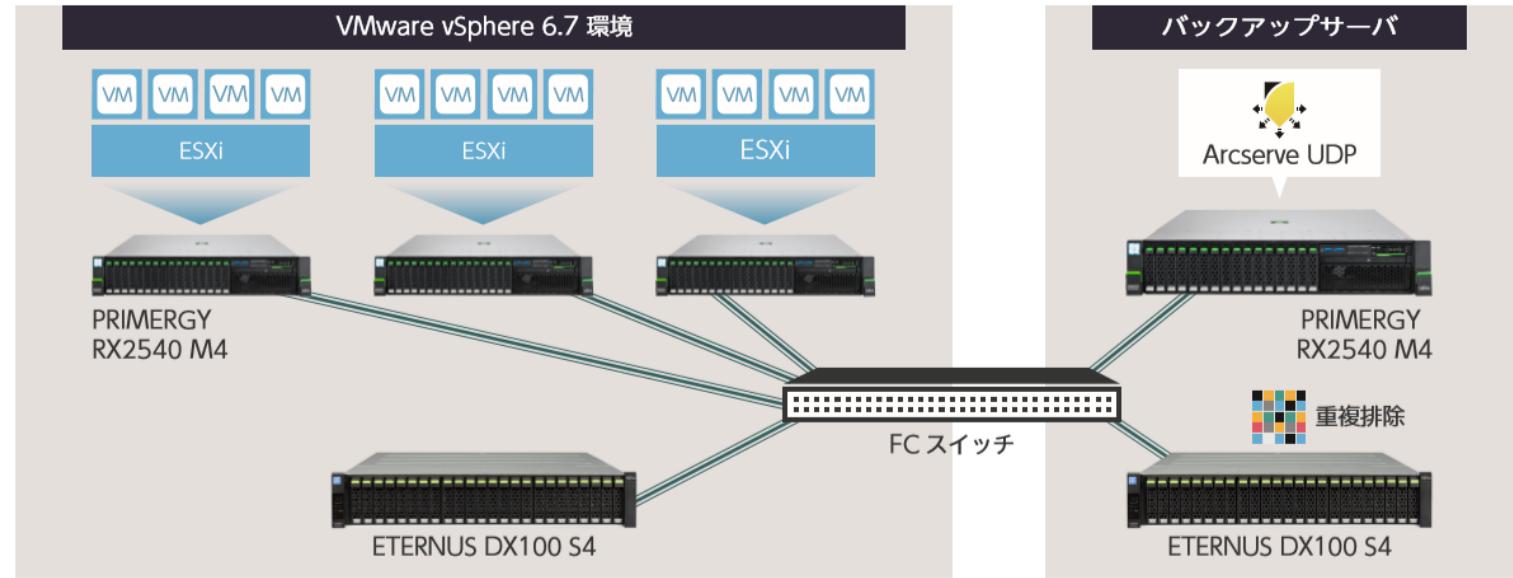
付録 2： Arcserve UDP ハードウェア構成の実例

ハードウェア構成実例1

～大規模仮想環境の並列バックアップ～

50台の仮想マシンを同時に
SAN 経由でエージェントレス
バックアップする大規模構成です。

この構成でのバックアップ時間
やバックアップ中のリソース使用
率などの詳細は「[Arcserve UDP
7.0 仮想環境における大規模並列
バックアップ検証レポート](#)」をご
覧ください。



仮想環境 (ESXi)	
PRIMERGY RX2540 M4	3 台構成
CPU	Xeon Gold 6132 2.60GHz/14 コア x 2
メモリ	192GB
内蔵HDD	600GB
外部ストレージ	ETERNUS DX100 S4 - LUN1 : 3822GB (RAID5) - LUN2 : 3822GB (RAID5) - LUN3 : 3876GB (RAID5)
OS	VMware ESXi 6.7
仮想マシン	
CPU	1CPU 2コア
メモリ	8GB
ディスク	- C: ¥50GB - D: ¥100GB シックプロビジョニング (Lazy Zeroed)

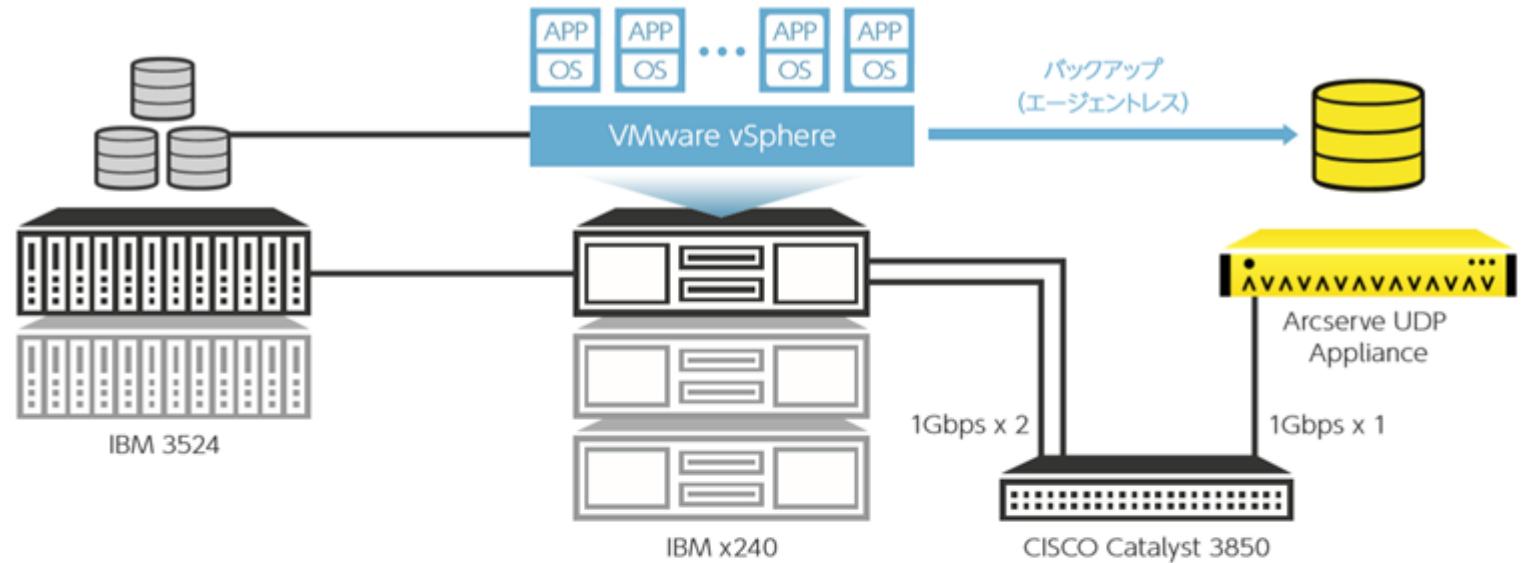
バックアップサーバ	
PRIMERGY RX2540 M4	
CPU	Xeon Gold 6132 2.60GHz/14 コア x 2
メモリ	192GB
内蔵 HDD	600GB
外部ストレージ	ETERNUS DX100 S4 - LUN1 : 12012GB (RAID5)
OS	Windows Server 2016 Standard
バックアップソフトウェア	Arcserve UDP 7.0 Advanced Edition - Socket - UDP コンソール - 復旧ポイント サーバ RPS データストアの配置先として外部ストレージ (ETERNUS DX100 S4) を使用
その他	バックアップ プロキシ

ハードウェア構成実例2 ～ UDP Applianceによる仮想ファイルサーバのエージェントレス バックアップ

仮想化されたファイルサーバのバックアップに Arcserve UDP 8200 Appliance を使用しています。

Arcserve UDP 8200 Appliance のスペックについては[カタログ](#)をご覧ください。

また、この構成でのバックアップ時間などの詳細は「[JBCC社内ファイル・サーバでのバックアップ運用検証レポート](#)」をご覧ください。



VMware ESX ホスト	IBM FlexSystem 上の x240 (8737-L2J)	バックアップ対象のファイル・サーバのディスク容量	サーバ 1 : 1.87 TB
SAN ストレージ	IBM DS3524 (1746-C4A)		サーバ 2 : 2.48 TB
LAN スイッチ	CISCO Catalyst 3850		サーバ 3 : 2.97 TB
VMware vSphere バージョン	ESX : v.5.5.0 1746018 vCenter : v.5.5.0 2001466		サーバ 4 : 3.43 TB
ファイル・サーバ用の仮想マシンのスペック	vCPU 2 , vRAM 4GB		合 計 : 10.75 TB
		バックアップ・サーバ	モデル : Arcserve UDP 8200 Appliance ソフトウェアバージョン : Arcserve UDP v6.5 ストレージ容量 : 12TB 重複排除用SSD : 240GB

<参考> Arcserve UDP Appliance 9000 v2 シリーズ仕様表

	Arcserve UDP 9200 v2	Arcserve UDP 9200-6 v2	Arcserve UDP 9220 v2	Arcserve UDP 9220-6 v2
ストレージ容量 (RAID設定)	12TB (RAID5)	8TB (RAID6)	24TB (RAID5)	16TB (RAID6)
ハードディスクドライブ	4TB SAS × 4		8TB SAS × 4	
ソリッドステートドライブ (重複排除用)	240GB SSD		480GB SSD	
プロセッサ		Intel Xeon Silver 4310T, 10コア 20スレッド, 2.3 GHz		
RAM			32GB	
	Arcserve UDP 9400 v2		Arcserve UDP 9420 v2	
ストレージ容量 (RAID設定)	40TB (RAID6)		80TB (RAID6)	
ハードディスクドライブ	4TB SAS × 12		8TB SAS × 12	
ソリッドステートドライブ (重複排除用)	960GB SSD		1920GB SSD	
プロセッサ		Intel Xeon Silver 4310T, 10コア 20スレッド, 2.3 GHz × 2		
RAM			64GB	

※注：現在（2024年11月時点）Arcserve UDP Appliance 9000 v2シリーズに同梱されている **Arcserve UDP のバージョンは "9.1"** です。
Arcserve UDP Appliance 9000 v2 シリーズのご紹介、詳細な仕様などは以下のURLを参照してください。

「バックアップ アプライアンス Arcserve UDP 9000 v2 シリーズのご紹介」

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-05/udpa-9000v2-overview.pdf>

お問い合わせはこちから



資料内で案内している資料はカタログセンターに掲載しています



Arcserve ポータルサイト：arcserve.com/jp
カタログセンター（カタログ、技術資料）

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパンダイレクト（購入前のお問い合わせ）



例：「この構成で必要なライセンスを教えてください」、「Arcserve UDP はXXXに対応していますか？」、「XXXはサポートされますか？」

フリーダイヤル： 0120-410-116

（平日 9:00～17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます）

Web窓口：<https://www.arcserve.com/jp/contact-us>



arcserve Japan合同会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング

購入前のお問い合わせ:

Tel: 0120-410-116 (営業時間: 平日 9:00~17:30)

E-mail : JapanDirect@arcserve.com

Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)

arcserve/jp

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.

© 2025 Arcserve. All rights reserved. All Arcserve marks referenced in this presentation are trademarks or registered trademarks of Arcserve in the United States. All third party trademarks are the property of their respective owners.